

● 2008 年 11 月 28 日（金） 15:30-17:00

アニメリテラシー
— アニメを映像メディアとして読み解く —

講師：有吉末充（京都学園大学人間文化学部・図書館利用教育委員会
委員）

こんにちの情報メディアについて考えるときに「アニメ」を避けて通
ることはできません。アニメはもはや子どもだけのものではなく、ヤ
ン
グアダルトから、20代、さらには中高年にまでその観客は広がって
い
ます。また、日本のアニメーションはマンガやゲームとともに世界中
で
愛好されており、いまや日本を代表する文化のひとつとなりつつあり
ま
す。なぜアニメは日本でこのように発達を遂げたのでしょうか。また
な
ぜ人々はアニメに惹きつけられるのでしょうか。多メディア化が進む
中
で、図書館でも今後、電子メディアの比重が増してくることが予想さ
れ
ます。このうち映像メディアに関しては、ニュースやCMに対するリ
テ
ラシーの必要性はしばしば語られてきましたが、アニメのリテラシー
は
これまで検討される機会がありませんでした。このフォーラムでは、
日

本のアニメーション映画がどのようにして発達してきたのか、その歴史を俯瞰しながら、アニメが表現しようとしているものはなにかを映像文
化の側面から分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、もはや子どもではない人々までがアニメに魅せられるのはなぜかを考えていきます。このように、アニメをメディアとして分析する作業を通して、これからの情報リテラシーの指導者に必要な、アニメとの付き合い方のヒントを探ってみたいと思います。

■会場：パシフィコ横浜 図書館総合展フォーラム第9会場
<http://www.pacifico.co.jp/visitor/accessmap.html>
注：会場については、昨年まで、アネックスホールでしたが、
今年は会議センターになります。

■対象者：図書館職員、教職員、日本図書館協会会員、図書館関係団体、
他

■主催：日本図書館協会

■参加（資料）費：1,000円

■申込：下記の申込書に記入のうえ、日本図書館協会事務局あて電子

メールでお申し込みください。

送付先：cue@jla.or.jp

■定員：100名、先着順受付

■締切：11月20日（木）

■詳細：図書館利用教育委員会ホームページ

<http://www.jla.or.jp/cue/>

この講演会のポスター

<http://www.jla.or.jp/cue/sogo10.pdf>

● 申込書

—

《第10回図書館総合展》フォーラム講演会参加申込書：

[2008年11月28日(金)]

■ 申込日：

■ 氏名（氏名ヨミ）：

■ JLA 個人会員／施設会員／非会員（会員の場合は会員番号： ）

■ 所属：

■ 住所：

■ 電話番号：

■ 電子メール：

—

※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、
今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表するこ
と
はありません。

=====
===

(2) 第12回図書館利用教育実践セミナーの報告

健康・医療情報は、市民の「命を守る情報リテラシー」

—わかりやすい講演内容と好評！—

春田和男（筑波大学大学院生）

日本図書館協会（企画・運営：図書館利用教育委員会）は、7月18
日、

同協会の研修室で、第12回図書館利用教育実践セミナーを開催した。
今
回は、青木玲子氏（埼玉県立男女共同参画推進センター）と和田佳代
子
氏（昭和大学）を講師に迎え、「市民のための情報リテラシー講座の
運
営～健康・医療情報の提供を事例として」と題して、講演が行われた。

講演では、まず、青木氏が、埼玉県男女共同参画推進センターでの
取
り組みをもとに、市民向けの情報リテラシー講座の企画・運営のノウ
ハ
ウを示した。次いで、和田氏は、一般市民に対して医学情報の検索セ
ミ
ナーを行うときのポイント、自分や身近な人が病気になったときの健
康
・医療情報の探し方について詳細に解説した。講演後には、講師と受
講
者との間で、質疑応答が活発に行われた。

このセミナーには、各館種の図書館員を中心に39名が参加した。受
講
者に対するアンケートの集計結果は次のとおりである。青木氏の講演
に
ついては、「良かった」が64.3%、「まあ良かった」が17.9%である。
和田氏の講演については、「良かった」が92.9%、「まあ良かった」
が
7.1%である。両者とも、アンケート回答者の8割以上から、良いとい
う評価を得た。自由記述欄には、「講座の企画の立ち上げから運営ま
で
の流れがよくわかった」「わかりやすく、配付資料も充実していて良
か

った」などの感想が寄せられた。

=====
===

(3) 第 168 回図書館利用教育委員会議事録

日時：利用教育委員会 平成 20 年 8 月 22 日（日本図書館協会 会議室）

合宿 平成 20 年 8 月 22 日-23 日（国立女性教育会館）

1. 第 10 回図書館総合展（フォーラム）

- 1) 講師：有吉末充氏 テーマ：アニメリテラシー
- 2) 会場：パシフィコ横浜 第 9 会場 - 4 F （100 名定員）
- 3) 日時：平成 20 年 11 月 28 日（金）15:30～17:00
- 4) 会費：1,000 円（一律）
- 5) 委員会を同日（28 日）に開催する。⇒議題は京都セミナー，20 周年記念事業など。
- 6) 配布資料費・受付係交通費・セミナー資料代を計上する。

2. 京都セミナー

- 1) 日時：平成 21 年 3 月 14 日（土） 9:30-12:40
- 2) 会場／定員 キャンパスプラザ京都 289 名
- 3) テーマ，講師などは未定

3. 出版計画

出版計画は利用教育委員会 20 周年記念の一環として位置づける。

- 1) 図書館利用教育ハンドブック（学校図書館版）
平成 21 年 1 月までに出版計画を作成予定。平成 22 年 3 月に完成予定
（目標）
- 2) 「実践セミナー・シリーズ」への出版計画 = 2 冊

フライデーナイトセミナーからのセミナー実践記録と通信の文献

リストの集大成も含めて出版計画を練る。

4. 利用教育委員会のアーカイブ資料作成

20年間の(1)利用教育委員会通信, (2)メルマガ, (3)総合展資料, (4)図書館大会資料をまとめる。全て, CUEのウェブページに順次公開。通信合冊版を作成し販売予定。

5. 利用教育委員会グッズの開発・作成

現在の「リテラシーしおり」は継続して作成する。

グッズの試作や研究開発へのプロジェクトを立ち上げる(東京都図書館協会の研究助成金を申請予定)

6. 20周年記念事業プロジェクト予定 (20周年事業プロジェクトとし

て「シンポジウム」を計画)

2008年12月 ⇒新旧全委員でプロジェクト立ち上げ会を開催

2010年03月 ⇒京都シンポジウム

2010年05月 ⇒名古屋シンポジウム

2010年10月 ⇒シンポジウムと全体成果の発表(東京または大阪)

=====
===

(4)文献紹介 1

さらに便利になった『情報リテラシー読本』第3版
—毛利和弘前委員長が「新版文献調査法」を出版—

戸田光昭 (駿河台大学名誉教授)

文献：『文献調査法—調査・レポート・論文作成必携—（情報リテ
ラシー読本）第3版』毛利和弘著・刊 日本図書館協会発売
2008年7月7日発行 B5判 235p. 1,900円（税別）

本書は、4年前に初版が発行された。その第3版である。著者が「はじめに」で書いているように、「情報の陳腐化」に対処するために、隔年刊行をしている。特に「今回の版では、第七章の事実調査に関する部分をさらに充実するとともに、特に重要なものやサンプルがないと分かりにくいものについては、巻末の方にサンプルを付し利用の便宜を図った。また、最新のレファレンスツールもできるかぎり採録し強化した。また、動きが早いインターネット上の情報源ツールの差し替え・追加等も行い、事実・事項調査については、第八章として独立させた」。このように、文献調査に大いに役立つ内容になっているが、変化が激しい世界であるから、新情報に対しては各自が絶えず注視し、取り込む姿勢が重要であると注意している。ページ数は、第2版が214ページだったので、11ページの増加である。

『情報リテラシー読本』という副書名のついた本書は、学生の自学自習用、図書館の参考業務（レファレンス係）の文献調査の手引き、図書

館利用指導の基本テキスト，ビジネスにおける調査業務の参考図書など
で利用されることを意図して編纂されたものであるが，専門家が使っ
ても役立ち，大学の新生が自分だけで使うことができ，さらに，図書館
業務にも使えるという多様な活用が可能なマニュアルであり，レファ
レンスブックでもある。

最初に，番外的な活用事例を紹介したい。「大きな書店」の代表であ
る「ジュンク堂」（淳久堂）のことが知りたいと思って，巻末索引を引
いてみる。「し」の所に，見出し語として採用されており，27ページ
に掲載されていることが分かる。27ページのコラム「アルファertime」
に，「図書館の周辺③—大型書店の時代??」として，この大型書店の
東京・池袋本店の紹介が，簡潔にまとめられており，新宿店も「ゆっ
たりとした空間のある図書館のような」場所とある。ジュンク堂池袋本
店は，10階建てのビル全体が書店であると書いてある。

では，本書の目次から全体を概観してみよう。全体が8つの部分か
らなっている。

最初は，「I. 本の探し方」である。1. 国内の本を探す，2. 国
外

の本を探す， 3. レファレンスツール（参考図書等）を探す， 4. 官
公
庁図書・資料を探す， 5. 翻訳図書を探す， 6. 全集・叢書を探す，
7.
書評された図書を探す， 8. 主題から文献を探す（雑誌記事等含む）
と
して8項目に分かれ，それぞれを具体的に解説し，事例紹介をしてい
る。

「Ⅱ. 雑誌記事の探し方」では，具体的な索引ツールごとに，解説
と
事例紹介をしている。すでに廃刊になったものも含まれていて，図書
館
蔵書の徹底的活用ができるようになっている。

それらは， 1. 雑誌記事索引として，(1)NDL-OPAC 雑誌記事索引，(2)
『雑誌記事索引—人文・社会編』，(3)『月刊雑誌記事索引(JOINT)』，
(4)『総合雑誌記事索引』，(5)『全国短期大学紀要論文索引』，(6)
『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』，(7)『歴史学紀要論文総覧』，
(8)『社会科学論文総覧』，(9)『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索
引
集成』，(10)『主要新聞雑誌記事総覧 昭和戦前編』，(11)“Social
Sciences Citation Index”。

2. 論文索引として，(1)『論文集内容細目総覧』，(2)『学会年報・
研究報告論文総覧』，(3)『人文・社会翻訳記事論文索引』。

3. 雑誌記事の抄録・目次として，(1)『科学技術文献速報』，(2)
『日本雑誌総目次要覧』，(3)『政府定期刊行物目次総覧』。

なお，雑誌記事探索の二次資料の中には，上記のように，廃刊にな
っ

たものもある。情報を探す人には、現在発行されているのか、あるいは既に消滅してしまったのかなどということは、全く問題でない。探す人は求めるものが出てくればよいのである。廃刊になったものは分かりませんが、街の書店員以下ということになる。これらのうちで廃刊になったものは、大半がデータベース化され、ウェブ上のオンラインサービスなどで提供されている。このように著者は解説しており、これらの事情を本書ではしっかりとおさえている。

「Ⅲ．新聞記事の探し方」では、最初に、1．新聞情報調査機関概要が掲載され、国内の3機関と海外の2機関が紹介されている。新聞は特別な資料で、そのバックナンバーも含めて所蔵している機関は限定されており、新聞の現物がなければ、索引も作れないし、原文を読むこともできない。そこで、このような新聞資料センター的な機関が重要になるのである。具体的な検索ツールを中心にした解説と事例紹介も付けられている。

2．新聞縮刷版（各紙、発行していない新聞もある）では、主要縮刷版一覧ならびに、縮刷版の事例が掲載されている。

3. 新聞記事索引では、(1)日経テレコン 21, (2)読売新聞オンラインサービス「ヨミダス文書館」, (3)朝日新聞オンラインサービス「聞蔵」, (4)『朝日新聞記事総覧』, (5)『読売ニュース総覧』, (6)『毎日ニュース事典』, (7)『会社・産業ニュース索引』があった。現在はオンライン版だけが残っているが、本書では、いずれについても解説されている。

4. 新聞記事ニュース事典では、(1)『明治ニュース事典』, (2)『大正ニュース事典』, (3)『昭和ニュース事典』がある。

5. 新聞集成（新聞から主要な記事を選択し、そのまま転載したもの）では『国際ニュース事典 外国新聞に見る日本』など、9種類が紹介されている。

「IV. どのような種類の新聞・雑誌があるか調べ、その所蔵館は？」では、8つのツールを紹介している。それは、(1)『雑誌新聞総かたろぐ』, (2)『日本雑誌総覧』, (3)“Ulrich’s International Periodicals Directory”, (4)NACSIS Webcat, (5)『学術雑誌総合目録』, (6)『明治新聞雑誌文庫所蔵目録』, (7)国立国会図書館所蔵目録, (8)『雑誌名変遷総覧』である。

「V. 人物から文献を探す」では、主要な11のツールを紹介している。(1)『現代日本執筆者大事典』, (2)『現代日本執筆者大事典 77/82』,

(3)『新現代日本執筆者大事典』，(4)『現代日本執筆者大事典』第4期，
(5)『日本人物文献目録』，(6)『人物文献目録』1980～，(7)『人物研究
・伝記評伝図書目録』，(8)『研究者・研究課題総覧』，(9)『伝記・評
伝全情報』，(10)『年譜年表総索引』，(11)“Biography Index”である。

「Ⅵ. 人名情報の探し方」では、『人物レファレンス事典』，『東洋
人物レファレンス事典』，『西洋人物レファレンス事典』，『外国人名
レファレンス事典』などを紹介している。

「Ⅶ. 事実・事項調査のための情報源—書誌以外のレファレンスツ
ールを主として—」では，(1)主要参考について，(2)主要参考図書一覧
がある。

「Ⅷ. 事実・事項調査に役立つ主要データベース一覧では，(1)オン
ラインデータベース一覧，(2)CD-ROM一覧があり，具体的に説明している。

巻末には付録として，(1)事実・事項調査の参考図書サンプル一覧，
(2)調査に関する演習問題がついていて，本書をテキストとしてだけで
なく，自学自習用にも使えるよう配慮がされている。なお，参考図書サ
ンプル・ページは読本として，大変便利なものであるが，年次，版次の
表

記がないのが残念である。演習問題にはヒント，解答例などの検討をお
願いたい。さらに，巻末索引がついており，かなり充実してきたが，
一層の工夫と補充を期待したい。

=====
===

(5) 文献紹介 2

健康情報を選ぶための基本的なツールが完成
—日本の公共図書館の「健康の本」コーナーはここから始まる—

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

文献：『公共図書館のための「健康情報の本」選定ノート』「市民
への健康情報サービスのための基本図書およびWEB情報源リ
ス

ト」を作成する会 編集・発行

（連絡先： e-mail: kenkojoho@gmail.com）

2008年3月発行 A4判 49p. （非売品）

URL: <http://booklog.jp/users/kenkojoho/> （試作版全ページ閲覧可能）

長寿社会の進展と健康ブームの高まりの影響もあって，患者や市民
への健康情報提供に取り組む公共図書館や病院図書館・医療関連研究機
関
図書館が増加している。しかし，適切な健康情報選択のためのツール
が
不足しており，特に医療専門家向けではなく，医療機関利用者（消費
者）
のための情報という観点からの選択・選定ツールがほとんど無い状態
で

あった。今回、ここに紹介するのは、その不足を解消する手始めにもなるツールである。

現在の状況は、公共図書館での資料選定の困難さ、医学書情報や専門的知識の不足などがある。これらを解決する第一歩として、この「選定ノート」が作成された。

これを編集・作成したのは、日本図書館協会(JLA)健康情報研究委員会の呼びかけに応じて集まった公共図書館、医学図書館、病院図書館、健康情報サービス研究機関などの関係者で、有志の会（作成する会）が編集母体として結成された。当初の目標は、「基本図書リスト」で、「選定ノート」はその第一歩としていた。しかし、作成するうちに、本の情報は常に更新されるもの、そして、これに協力してくれた、あるいはこれを利用してくれた人たちのもの、という思いが強くなり、タイトルは「選定ノート」をそのまま使うということになった。

その内容は、一般市民を対象に、公共図書館の諸事情も踏まえ、価格、入手状況、対象者、内容などを記載し、疾患別に、単行本90冊、叢書（シリーズもの、講座ものなど）16シリーズをリスト化したものである。健康情報サービスを先進的に実践している13の図書館・医療研究機関情報施設（亀田総合病院、京都南病院図書室、県立がんセンター新潟病院、

東京医科大学，東京女子医科大学，東京都中央区立日本橋図書館，東京都立中央図書館，東邦大学医療センター大森病院，虎の門病院，静岡県立こども病院，聖路加看護大学看護実践開発研究センター，聖路加国際病院，横浜市中心図書館）からの目録情報（7,304件，重複を含む）の提供と，東京都図書館協会の研究助成（2006～2007年度）によって実現した。

選ばれた情報源は，原則として，（1）調べものができる資料，（2）2004年以降発行のもので，2007年7月現在で入手可能なもの，（3）3館以上で重複して所蔵のあった保健・医療関連資料，である。この原則に当てはまらないが，入れた方が良いと判断した本もリストに入っている。

編集の仕方は，まず，全体が二部構成で，単行書と叢書（シリーズ）に分かれている。それぞれに資料番号がついており，単行書は，01から90まで，叢書はS01からS16までとなっており，配列は単行書が米国国立医学図書館分類法（NLMC）を参考に20項目とし，分類項目（日本語）を五十音順に並べ，その中は出版年月、書名順になっている。叢書は分類項目の五十音順，叢書名の五十音順になっている。

本に関する情報としては，単行書の場合，（1）資料番号（連番），（2）書誌事項（NDL-OPACに順ずる記述），（3）調べやすさの評価項目として，

目次，参考文献，索引，名簿の有無，図表（多さ，色など），定期的な改訂の有無などを○×で示した。(4)この本が対象とする主な読者（一般，患者，家族，高校生などと具体的に書かれている）。(5)想定される主な利用者，(6)参考価格，(7)内容，(8)著者の所属。

記述のページ見本はつぎの通りである。

試作版 URL:

<http://booklog.jp/users/kenkojoho/archives/4938866293>

(2)全国患者会障害者団体要覧 / プリメド社「全国患者会障害者団体要

覧」編集室編 - 第3版. プリメド社, 2006.4. 329p ; 26cm.

ISBN 4-938866-29-3. NDC (9) 498.035.

(3)目次:○ 参考文献:△ 索引:○ 図表:なし 名簿:○ 定期的な改版:×

(4)この本が対象とする読者:病気や障害の当事者，家族，支援者

(7)内容: 体験を共有できる，共に歩む仲間と出会う。 - 日本全国の病

気や障害の当事者の会，家族の会，当事者も参加している支援団体 1442 団体を収録。活動範囲が都道府県以上，当事者はだれでも自由に参加で

きる，連絡先を公表している，などの基準に合った団体。データは 2005 年 12 月 31 日現在のもの。24 の大カテゴリーをさらに中カテゴリー，小カ

テゴリーと 3 段階に分け，全国的なネットワークから地方単位で北から

南へ順番に掲載。会の本部の名称，連絡先，目的や活動内容，対象，刊

行物などを紹介。巻末に疾患・障害別索引，団体名索引，都道府県索引。

本稿作成後に，編集者から，「LITERIS というサイトの「市民への医療情報提供」というページで暫定的に公開しております。

<http://plaza.umin.ac.jp/~literis/cgi-bin/fswiki/wiki.cgi?page=ConsumerHealthInformation>

先に配布した現物は在庫がなくなりましたが，ご希望される方

が多く，しばらくの間，上記 URL よりダウンロードできるようにいたしました。」という最新情報が入った。

=====
===

(6) 図書館利用教育文献一覧（2008年2月～2008年9月発行分）

・対象誌は次の通りです。

『医学図書館』 『学校図書館』 『カレントアウェアネス』 『看護と情報』 『現代の図書館』 『情報の科学と技術』 『大学図書館研究』 『同志社大学図書館学年報』 『図書館雑誌』 『みんなの図書館』 『ほすぴたるらいぶらりあん』 『Library and Information Science』 『LISN』

・この文献一覧の情報は、当委員会委員が現物により収集したものです。

内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方は，ぜひご連絡

ください。

・収録対象期間には多少ずれがあります。

・上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。

・一部の文献には解題を付し，担当者の署名を末尾に記しました。

・書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等で示し，
館

種別にリストアップしました。

・ ◆は利用教育関連文献，◇は少し広く採録した参考文献です。

【大学図書館】

◇伊藤白；小澤弘太「レファレンス事例を活用した Web 上パスファイン

ダーの作成・提供—国立国会図書館科学技術・経済課における主題情

報コンテンツ作成の取り組みと成果」『参考書誌研究』68, 2008.3, pp. 50-68.

◇伊藤白；小澤弘太「国内における Web 上パスファインダーの現況調査」

『情報の科学と技術』58(7), 2008.7, pp. 361-366.

◆井上靖代「アメリカの大学図書館はいま。(その2)」(アメリカの

図書館は, いま。27) 『みんなの図書館』377, 2008.9, pp. 46-50.

◆大城善盛「大学図書館界を中心とした情報リテラシー論—アメリカ, オーストラリア, イギリスにおける議論を中心に—」『大学図書館研

究』82, 2008.3, pp. 23-32.

◆太田潔「『初年次教育』にかかわる大学図書館の役割についての一考

察—最近の動き—」『図書館雑誌』102(2), 2008.2, pp. 94-96.

◆駒場早苗「初めての文献検索ガイドを体験して」『看護と情報』15, 2008.3, pp. 40-41.

◆佐藤駿介「群馬パース大学における CiNii の活用と文献検索ガイダンス」

『看護と情報』15, 2008.3, pp. 50-53.

[内容]『医学中央雑誌』のガイダンスの後に, CiNii の利用方法を教え

ている。同大学の紀要を例に演習問題を作成し、文献検索の指導後の

学生の反応や CiNii 利用件数の増加などについて述べている。(W.K.)

◆慈道佐代子「一年次教育における図書館の役割—図書館が参加・実施

する情報リテラシー教育を考える」『大学図書館研究』82, 2008.3, pp.12-22.

◆JLA 図書館調査事業委員会「『日本の図書館 2006』大学図書館における

その他のデータ—「学外者へのサービス」と「利用教育」」(数字

で見る日本の図書館(その36))『図書館雑誌』102(2), 2008.2, pp.114-115.

◆柴尾晋「『教育の場』としての図書館の積極的活用—図書館の持つ『教育力』を教育に活かす明治大学図書館の取り組みについて」(特集:大学図書館)『LISN』137, 2008.9, pp.6-9.

◇諏訪敏幸「研究に関わる相談サービス(文献研究の範囲決定,スケ

ール探し,投稿誌選択):大阪大学生命科学図書館相談サービス事例(その1)」『医学図書館』55(3), 2008.9, pp.246-250.

◆高野聡;山口雄三「看護学科の学生にたいする文献検索オリエンテ

ーションの評価:アンケート調査によるアウトカム評価と多変量解析に

よる検討」『看護と情報』15, 2008.3, pp.74-81.

[内容]文献検索オリエンテーションの内容と,その具体的成果および

有効度の関係について多変量解析の手法を用いて分析している。主な

質問7項目の回答をもとに,有効度(従属変数)と成果(独立変数)のすべての重回帰分析の結果から,特に「医学中央雑誌の検索方法」

の有効度が大きかったようだ。またオリエンテーションに参加した学

生は参加しなかった学生よりも効率的な文献検索を行っている」と結論

している。(W.K.)

◆日本図書館協会図書館利用教育委員会「わが国大学図書館における利

用教育の実態—『日本の図書館 2003』付帯調査の結果報告』『現代の図書館』46(1), 2008.3, pp.62-75.

◆春田和男「第21分科会 図書館利用教育委員会 みんなで創ろう図書館

利用教育！—実践アイデア交流広場（平成19年度（第93回）全国図

書館大会ハイライト）」『図書館雑誌』102(1), 2008.1, p.29.

◆Farmer, Lesley 「〈特別講演〉Information Literacy Instruction in the Library（2007年7月4日，臨光館205番教室において）」『同志社

大学図書館学年報』34, 2008.7, pp.6-34.（本文は英文）

◆Farmer, Lesley；小松飛彦訳「〈特別講演〉図書館における情報リテラ

シー教育（2007年7月4日，臨光館205番教室において）」『同志社大

学図書館学年報』34, 2008.7, pp.35-48.（上記論文の翻訳）

◆松本直子；佐藤晋巨「聖路加看護大学図書館における利用教育サービ

ス：5年の評価」『看護と情報』15, 2008.3, pp.54-59.

[内容]2002年に図書館の利用教育サービスを「図書館利用教育ガイド

ライン」に基づいて評価を行ったが，この後5年を経過した現状の評

価を行い，前回の評価との比較や達成された点，解決すべき課題を述

べている。上記ガイドラインの 10 項目, 32 手順のうち, 前回より大幅
に未実施の部分が改善されたことを挙げ, 特に前回ポイントが低かつ
た項目の目標設定を意識的に行うなどの試みがなされている。身に
つけるべき情報リテラシーを「学習者」「実践者」「研究者」の 3 段階
に分け, 学習段階に応じて利用者がスキルを身につけられるプログラ
ムを提示している。なお, 図表の一部には平成 19 年の第 93 回図書館大
会・図書館利用教育委員会のブースで松本氏が発表したものが挙げら
れている。(W.K.)

【学校図書館】

- ◆金沢みどり「図書館 Web サイトの活用と情報教育」(教育時評 13)『学校図書館』689, 2008. 3, pp. 54-55.
 - ◆杉本洋「情報リテラシー教育を通して育成する PISA 型「読解力」(1)」(PISA 型読解力の向上を旨とする学校図書館・6)『学校図書館』695, 2008. 9, pp. 53-56.
- ---

【専門図書館】

- ◆越塚貴子「前橋赤十字病院図書室における新人看護師オリエンテーション」『看護と情報』15, 2008. 3, pp. 60-64.
- ◆秋葉さおり「利用者の求めに応じた講習会の実施—PubMed・医中誌を中心として」『ほすびたるらいぶらりあん』33(1), 2008. 3, pp. 18-

【共通】

◆米澤誠「学習・教育基盤としての図書館」（CA1668 研究文献レビュー）

『カレントアウェアネス』No.296, 2008.6, pp.23-28.

◇酒井由紀子「ヘルスリテラシー研究と図書館情報学分野の関与：一般

市民向け健康医学情報サービスの基盤として」『Library and Information Science』59, 2008.9, pp.117-146.

=====
===
(7) 編集後記

第71号をお届けします。今号では、11月に横浜で開催される第10回図書館総合展フォーラム講演会のお知らせを掲載しました。関心のある方はぜひご参加ください。皆様のご参加をお待ちしております。（春田）

=====
===
(8) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

(委員)

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

天野 由貴 : 梶山女学園高・中図書館

有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー
戸田 光昭 : 駿河台大学名誉教授
野末 俊比古 : 青山学院大学文学部
春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程
和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室
久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

—
< C U E > 利用教育委員会通信 第 71 号 (19 卷 2 号) 2008.10.24 発行

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録 ・ 変更 ・ 解除 ・ お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)